

平和とは、どう言う事だろうか

石崎 龍二

戦争の始まりは、人間の悪い心だと思います。その悪い心とは、すぐに人の悪口を言う心です。一人が言い出すと、その人の周りで悪口を言う人が増え、だんだん悪口が広がっていくのではないのでしょうか。この悪口がだんだん大きくなって、世界を巻きこむ戦争につながるのではないのでしょうか。だからその悪い心をもっている人の心を平和にしなくてはいけないのではないのでしょうか。

そのためには、日常生活の人に対する、暴力、暴言をなくすことから始まるのではないのでしょうか。

日本人が外国を怒ったのは、明治時代の1886年の10月に起こったノルマントン号事件がきっかけではないか。なぜ、あのイギリス人の船長は、日本人だけを、泳がせたのだろうか。こんな人がいるから、戦争が起こるのではないか。こんな事をして何のためになるのだろうか。この事実を知ってびっくりしました。

また、戦争を体験した人の話を聞いて、お父さんなどが戦争に行ってしまったなんてとてもかわいそうだなと、思いました。

ぼくは、もう戦争を起こさないためには、日常生活での、暴力、暴言を、本当になくした方がいいなと思いました。それから、他の国とは戦争をしないで、みんなが普通に学校に行けて、みんなで楽しく遊べる世界にしたいと思います。みんながそんな暮らしをして、さらに、殺人が無くなれば、この世界は平和になって、みんなが仲良く過ごせるようになります。

国語の授業で「心の中に平和のとりでを築く」ということを学びました。ぼくは、学んだことを忘れずに、友達と喧嘩しそうになったら、「平和のとりでを築く」を思いだして、喧嘩をする前に自分の心に『平和のとりで』を築き、みんなとは仲良く楽しく暮らしたいなと思いました。

殺人が無くなればこの世界が明るい世界になって、みんなが協力を忘れない世界になればいいなと思いました。これからは、国と国の協力がある世界を作りたいと思いました。

戦争で苦しむ子供は戦争中どのようにしていたのだろうか

石田涼太

自分で考えられる「平和」とは、自分が住んでいる土地に限りなく、また戦争をしている国なども、戦争をせずに、戦っている国同士で、話し合っって解決していくことだと思う。

何故かという、戦争では、10万人以上にも至り、自分の仲間も死んでしまうかもしれないのにもかかわらず戦争何かで出来事を終わらせるなどいけないと思う。

戦争中はどんな物を食べていたのか、こんぺいとう・カンパン（カンパンとは保存、携帯用にかたく焼いたパン、かたぱん）または、たくあんまたひしお、魚、などの食べ物を、戦争中食べていた。

戦争で人々は何万人殺されてしまうのだろうか、日清戦争での死者数は、13488万人もの人が殺されてしまっているのにもかかわらず、なぜ日露戦争をやるのだろうか。日露戦争の死者数は、88133万人の人が殺されている。

戦争中子どもはどのような生活をしているのか、子供は、戦争中、田舎にきていて、その田舎にきている意味は田舎には爆弾を投下されたりしないので田舎にきていたと言うことである。せめて、子供が戦争に行かずにすんだことはよかったと思う。

でも、戦争に行かない子供も大人の戦争に巻きこまれていて、今のぼくたちのような幸せな暮らしはなかったのだ。

これを書いて戦争は、お父さんやお母さんが殺されてしまい自分が傷つくだけでなく食べ物や友達と家族などが無くなってしまいいやだなと思った。

国同士話し合っって戦争をしないで仲良くしてほしい。

## 戦争での人々の暮らし

石橋 和樹

今、ぼくたちの暮らしは平和です。戦争のころは今と暮らしがぜんぜんちがいで、戦争が長くなるにつれ人々の生活はだんだんと苦しくなっていました。食料や服装、燃料など生活に欠かせない物も自由にてに入れず、政府から配られるキップを持ってはいきゅうを受けるようになりました。戦争のころの人々の暮らしは、つらい生活をしていたと思います。

戦争、それは国との争い、ただ燃料のことで戦争がおきてしまう。たったそれだけのことで、人々を死に至らしめるのはおかしいのではないのでしょうか。戦争は、関係がない人々にもまきぞいをあたえてしまいます。戦争でなくなった人々たちは、やはり数えきれないほどなくなっていました。

戦争のために子供たちまで、学校で軍になるための厳しい訓練をしていました。戦争のために子供たちまで厳しい訓練をさせるなんて、戦争は、命を気にしていないと思いました。戦争は、あつてはならないと思います。

戦争のときは、食べ物なんかそう簡単に手に入れられず、死んでいく人たちはかなりいます。今、ぼくたちは平和な時代に生きています。戦争の時代に生まれた人は、まさに食べ物なんか食べられなかった。だから戦争でなくなった人たちのためにでも、長生きや今食べれるものは食べなくてはならないと思います。

ぼくは、こんな戦争が起きていなかったらこの日本も平和だったのではないかと思います。でも日本は、かつて大事件を引き起こしています。中国の人々を暗殺してしまい、日本は、中国にも嫌われました。日本は、アメリカにまでもしんにゆうして、アメリカの人々を暗殺しました。そのときは、アメリカは、何にも準備していなかったのです。それだからアメリカは、日本に復しゅうをしました。日本は、アメリカなんかには勝つわけがなかったのです。この戦争は、日本がおこしてしまったと思います。でもアメリカは、戦争の決まりをやぶって、日本の人々を次々B29でいっきにやけ殺していきました。ぼくは、昔そんなことがあったなんて、とても怖いです。戦争は、あつてはならないと思っています。もしもまた、戦争が起きてしまったらきっと日本は、残ってはないと思います。

戦争で人々の心も考えずに戦争や暴力ですませずに話し合っただと過すものだと思います。

## 戦争が起こる原因

磯 祥行

戦争で数え切れないほどの人たちが死んで、戦争はたくさんの人々を苦しめていきます。なぜこんな戦争が今も続いているのでしょうか。ぼくは戦争は燃料や経済の問題など、人の欲が原因で戦争が起きているんだと思います。だけどぼくは戦争のせいでたくさんの人々がぎせいになっていて、それに戦争は人の心までも汚して行ってしまいます。ですから、ぼくは戦争はもう二度としてほしくないです。

ぼくは戦争を体験した人の話を聞きました。戦争で、原爆が投下されて、たくさんの方が死んでしまいます。たとえ助かっても、放射線を浴びて原爆症などになってずっと苦しむことになってしまったりします。戦争中の人々は、食べ物もなく、いつも空腹の状態で苦しんでいます。そして毎日たくさんの方が餓えなどで死んでしまったり、生きていても食料がなく、へびやかえるなどを食べたり、苦しい生活をしていました。そして戦争で勝って、お金などが手に入っても、失った命は二度ともどってきません。

平和とは何でしょうか。戦争がない世界が平和でしょうか。だけどぼくは戦争がなくても人としての権利がなかったり、不公平だったりしたらそれは平和ではないと思います。平和とは、戦争がなく、人としての権利があって、みんなが平等なのが、平和だと思います。

ぼくは、戦争で死んでしまった人がとてもかわいそうだと思います。もう戦争を起こさないために、みんながやさしい心をもたなくてはならないと思います。

## 戦争に巻きこまれた人々

坂井 奎介

世界には戦争に巻きこまれた人たちが数多くいます。ぼくは、国語の学習で戦争に巻きこまれた人々がいること知りました。第二次世界大戦だけでも、**約6200万人**も死んでしまったり、ケガをしたりしたそうです。

インターネットで、こんな悲しい戦争に賛成する人がいました。「戦争の意義。戦争は、人を殺すことが、人口の利益・・・つまり、人類の利益。戦争は、増え続ける人間を、迅速、かつ効率的に減らせる。」ですが、ぼくはこの意見に反対します。たしかに、人口は増え続けますが、それを、戦争を利用して減らすというのはおかしいと思います。戦場へいく人に、「死んでこい」といってるようなものだと思います！自分がもし戦場に行ったら死にたくないと思うはず、今も戦ってる人たちのことも考えないで、よくもそんなことが言えるな！！と思いました。

日本は数々の戦争をしてきました。その戦争を終わらした兵器それが「**原子爆弾**」です。原子爆弾は爆発したと同時に「熱線」や「放射線」を放ち人々を苦しめました。熱線などから逃れても放射線を浴びてしまったら体内の細胞が壊れ、数年経つと原爆症や白血病になってしまいます。広島、長崎に原爆が投下されました。この原爆で亡くなった人の数は、合わせて約**49万人**も亡くなりました。今でも原爆症に苦しんでる人々がたくさんいます。原爆は爆発したあとでも、放射線という毒をまき散らします。このような爆弾は二度とつかってはいけないと思います！

ですから、ぼくは日本だけでなく、世界でもこの様なことがおこってほしくありません。

戦争をしてなにが得られるのか？戦争をして何かいいことでもあるのか？ぼくは、「得られるもの」も、「何かいいこと」も無いと思います。だから武力で解決しないで、話しあって解決してほしいです。

## 戦争によって苦しんでいる子供たち

坂入 涼介

ぼくは国語の学習で戦争をして苦しんでいる子供達について調べました。その中でナイジェリアで起きているビアフラ戦争（ナイジェリア内戦）についての考えを調べました。

ビアフラ戦争の原因は1967年5月30日に西アフリカのナイジェリア連邦の東部州や、連邦からの分離独立を一方的に宣言したため、7月6日に連邦政府軍が東部に進撃し、ナイジェリアが戦争となりました。この戦争では1970年まで続き飢餓や栄養失調、虐殺によってナイジェリアのイボ族が100万人以上が死亡した戦争です。

この中でぼくが一番注目したのが栄養失調で死亡する子どもたちです。栄養失調の原因はビアフラの封鎖によって起こったききんが原因です。栄養失調になったこの子どもたちは骨と皮はかなりやせ細っていておなかだけは異様に膨らんでいます。

ぼくはこれを見てとてもおどろきました。このような戦争は多くの人々の体も心も傷つけてしまいます。ぼくたち平和な国では戦争をしている国を助けに行くことなどできません。そしてぼくたちにできること、募金をしてあげる、食べ物を残さず食べるなど、ささいなことでもやってあげてもうこれからこのような戦争を起こさないように話し合いで解決することが大切です。そうすることによってほかの戦争も同じように争わずに話し合いで解決することができ死者も出ず平和な国となるはずです。

そして、世界の人々が戦争をしないように、心に「平和のとりで」を築いてどんな人の心も体も傷つけることなく解決することができればこの世界すべてが平和になると考えました。

殺人をしたらどのような罪があるのだろうか

須藤 柊人

インターネットにのっていた考えの中に、次のような意見がありました。

「殺人をする人が信じられません。命って終わってしまったら再生できないのに、その人の人生が終わるのに、どうして殺すことができるんでしょうか。私は殺された人の最期の気持ちや何を考えていたのかを想像すると怖く恐ろしくなります。もしかしたら自分も同じような目に会い、もうこれが最期だ、と思いながら、まぶたを閉じるときが来るのかもしれないと思うと怖いです。けれど最近日本でも日常的に殺人が行われているかのように、連日殺人事件のニュースが報道されています。殺人を犯す人は、想像力がないのでしょうか。別に自分が死ぬのは気にしないのでしょうか。（以下略）」  
ぼくはこの意見に対して賛成です。人は、ゲームのマリオのように命を再生・リセットできません。人を殺したら何もいいことはありません。周りの人は悲しみ、殺した人は警察署に入れられます。

ほかにもぼくの身の回りでも殺人のニュースなどが、毎日のように報道されています。本当に殺人をしたらなにがいいのでしょうか。むしろ、殺人をする人は精・神や心が、くるっているのではないのでしょうか。

今一番人を殺した人や殺人を計画している人に伝えたいことは、殺人をしてもいいことはない、しかも**自分が不幸になるだけだ**。ということです。

戦争をしている国に「平和」は来るのだろうか

舘野 優

僕が国語の授業の「平和のとりでを築く」を読んで考えたことは、「戦争をしている国に「平和」は来るのだろうか。」という課題です。

戦争の要は、国家間のぶつかり合いだそうです。その原因は侵略や防衛・宗教主義主張の相違など、理由はさまざまです。今でも戦争をしている国は4つあります。僕は戦争する理由が知りたいと思いました。いろんな大切なものを失うのは、とても苦しいと思ったからです。戦争している国にいる子供たちは、これからの未来をつなぐ大事な存在だと思います。

ぼくは平和について調べてみました。平和とは、戦争と対極にある状態で、暴力的な政治的活動が行使されない状態、争いがなく穏やかな状態を言います。また、人間が相互の恒常的な自由と秩序・平安などを実現・維持している状態であると言えます。例えば、具体的な戦闘が終結しているような場合においても、地雷などが依然として埋まっているような土地では、生活に対する危険な状態が継続していると言えるため、完全に平和になったとは言いがたいのです。

戦争により、栄養不足になり生きることが難しい子供たちがいると知りました。栄養不足の子供は一億五千万人。五才まで生きることができない子供が、毎年一億人もいます。

僕はこのことを知り、おどろきました。しかも、二億人もの子供が死んでいくなんて信じられません。戦争ではなくて、話し合いで交流を深めていけば、だれも傷つかない世界になると思います。

人類の歴史を改めて振り返ってみると、実に数多くの戦争で埋め尽くされていることに気付きます。人類の歴史は、戦争の歴史と言えるのではないだろうか。現在においても、戦争はなくなっていないのです。世界のあちこちで、今、この瞬間も戦争は続いているのです。どうして、罪のない子どもたちが、まだ幼いのに戦争で命を失うのだろうかと思いを覚えました。しかも、すでに戦争が終わっていても、日常生活の中で命を失う可能性があるのです。ぼくは戦争をしても人々の命をうばってしまうので、戦争はしない方がいいと思います。

事件は、なぜこんなに多く起きるのだろうか

塚本 遼

僕は、国語の学習で「事件は、なぜこんなに多く起きるのだろうか」という課題について考えました。

最初に、「この1年間でどのくらいの人が亡くなったか」について調べました。昭和61年の死者数は、1769人 昭和62年は、1605人 昭和63年は、1631人でした。でも、平成に入ってから元年には、1446人 平成2年には、1453人と昭和に比べ200～300人くらい減っています。次に、「1年間で何で何人なくなったか」で（日本での銃器発砲事件）について調べた結果、平成5年・死者数が、30人 平成6年は、38人がなくなっていました。その後、平成7年に、34人 平成8年に、17人 平成9年に、22人でした。平成7年に比べ、平成8年は、すごく減っています。このようなことから「事件をおこしてしまう理由は、あるのだろうか。」と思い、事件の動機を調べることにしました。

まず、新聞を読んで分かったことは、「ペットの、かたきを打つために殺した。」などと書いてありました。

次にインターネットから調べて見ました。すると、「大きな事件を起こせば自分の名前がマスコミにでると思った。」や「仕事関係でむしゃくしゃしてやった。」「親にしかられたから、親にはじをかかせたかった。」などが、ありました。

そのほかにも、調べてみると「動機なき殺人」という殺人もでてきました。動機なき殺人とは、動機がなく殺人のおこしてしまうことです。

この資料をみて、ぼくは、事件が起きる原因を「ストレスやかたきうちから事件になる」と「ただ、無差別に事件を起こしてしまう」という2つの考えを見いだしました。

次に、以上の資料から事件をなくすための方法について考えてみました。それは、ストレスをなくし、人のことを考えて平和で安心できる町にするために「思いやり」をいつも心の中に築くということです。

最後に、この課題に取り組んでわかったことは、事件は起こす気になれば簡単ですが、事件を起こさないために人々1人1人が、「平和のとりで」を築かないといけないと思いました。事件は、悪いことなので、絶対に大人になっても事件を起こす人にはなりたくないです。

## 戦争で苦しんでいる人々について

鉄炮塚 恒人

ぼくは、国語の平和のとりでを築くの学習をして戦争をして苦しんでいる人々について考えています。今も戦争が続いている国もあります。その国に住んでいる人々に「平和」は来るのだろうかと思います。

戦争中の日本はスローガンを作っていました。たとえば「欲しがりません勝までは」や「ぜいたくは敵だ」などのスローガンを作り自分をはげまし不自由な生活に絶えていたそうです。

今も戦争している国が全てを数えて24カ国もあるといわれています。その理由は宗教の違いなどからです。戦争といっても人は殺したりしませんが、建物の破かいや国の敵国から情報を盗んでいたりします。

今、戦争をしている国の子供達は、武器を持って戦っているそうです。しかし、この子供達の生活は台なしになってしまいます。もしかしたら死んでしまうかもしれません。戦争中の人々の生活は配給制になりキップと交かんになりました。なので生活にかかわる食料や衣服、灯油などが自由に手に入れることができなくなりました。しかも、学校では食料不足を補うために校庭まで畑として使われ食料不足を補っていました。子供のころから戦争のための訓練をやらされていたようです。しかし、戦争が終わっても、原子爆弾が落ちた地域はひがいが大きく数年間食料が不足していたようです。宗教のちがいや石油資源などのうばい合いで争い他国まで巻きこむ争いごとになってしまいます。また、人も死んでしまう悲しいことです。

戦争のためになり出された人々の親せきや親子は家族を失うし子供たちは食料がなくなるし、戦争の訓練をやらされて死んでいきました。こんな悲しいことはもう二度と起きてほしくないと思いました。戦争をやめたことは正しいことだと思います。

今、戦争をしている人たちも早く戦争をやめるべきです。もしかしたら、またあの日本のような国がでてしまうかもしれません。なので戦争をはやくやめてください。

## 戦争に巻きこまれた人々

中野 友裕

私は国語の学習で、戦争で死んでしまった人について調べました。死んでしまった人々について調べているうちに、「戦争は無意味なのではないか。」と思いました。その理由を今から説明したいと思います。

まず、なぜそう思ったのかと言うと、「戦争での死亡者数」です。次の数字を見てください。これは第二次世界大戦での死亡者数です。

**軍人 2500 万人 民間人 3700 万人 (諸説あり)**

**戦争には関係ない、民間人までもが、3700万人も死んでしまっています。**その上、軍人の死亡者数を上回っています。なぜ、戦場には直接参加していないはずの民間人がこんなにも死んでしまったのでしょうか。

戦争中の国民の暮らしについて、日本では、戦争が長くなるにつれ、人々の生活はだんだん苦しくなっていきます。食料や衣服、燃料など、生活に欠かせない物も自由に手に入れることができなくなり、全て政府から配られるキップを持って配給を受けるようになりました。それでも、人々は「ほしがりません勝つまでは」や、「ぜいたくは敵だ」などと言ったスローガンで自分たちを上げましながら不自由な生活にたえていったそうです。

国民の生活を厳しくしてまで、戦争を続ける意味があったのでしょうか。国民は、自分達の生活が苦しくなってでも、戦争を望んでいたのでしょうか・・・？私は、そうは思えません。しかし、当時は戦争に反対することは、「非国民」と言われたり、憲兵に暴力をふられたりされ、嫌でも戦争に賛成しなければならなかったのです。

日本だけでもこのようなことがあったのですから、世界ではもっと酷いことが起きていると思います。

戦争をして何があるのでしょうか？人が死に、憎しみや悲しみが生まれ、人を殺してしまった人は、とてつもない罪悪感にみまわれると思います。戦争をして意味があるのでしょうか？私は、この無意味な戦争を、世の中から無くすべきだと思います。

## 戦争で苦しんでいる人達の生活について

生井 聖也

僕は、国語の学習で、戦争で苦しんでいる人達の生活について考えています。戦争をしていたときの日本では、都会の学童には緑故者のもとへの疎開を奨励していたが、それができない子供たちは学校単位で集団疎開させられていました。僕はこれに対して、疎開は親とはなれて暮らさないといけないのでかわいそうだなと思いました。

戦争をしていたときは食料不足が深刻で、野菜の自給自足運動が始まって、ありとあらゆる場所が畑になりました。ほかには野菜の配給など始まり食糧の割当配給制は六大都市から始まり、しだいに全国へ広まっていきました。日用品も配給制になりました。食糧が不足していて食べ物なども自給自足になってしまい、米や野菜なども配給制になり大変だなと思いました。

人々の日常生活では、学校にいつている人たちは授業で軍事教練がありました。陸軍の現役将校や元軍人が生徒たちに行う軍事教練は、当時の中学校の必須課目だったそうです。学校などでも軍事教練を授業でやるなんてすごいなと思いました。ほかには人手不足が深刻になり、14歳以上25歳以下の女性による勤労奉仕団体、女子挺身隊が組織されたのです。本土決戦に備え竹槍訓練なども行われました。国民総武装とかけ声は勇ましかったが、戦う武器はすでになく、行われたのは竹槍訓練でした。普通、戦う武器がないのに竹を使ってまで訓練するのかなと思いました。貯蓄運動が盛んになりました。戦費調達のための貯蓄奨励のポスター。このほか戦時債券の購入なども割り当てられました。ここまでして戦費調達をするのはかわいそうだなと思いました。

戦争の事を調べていろんな事が分かりました。戦争中、学校では軍事教練を行ったり、子供たちは疎開先へ行ったりとかかわいそうだなと思いました。ほかには日用品や食料なども配給制になり野菜の自給自足運動なども始まったことが分かりました。

戦争の事を調べてぼくが思ったことは、戦争をしても何一ついい事はないし人々が苦しんでしまうので戦争は全く意味がないということです。

## 日本の子どもたちについて（平和）

森 好清

今、僕は国語の学習で日本の子どもたちの平和について考えています。

自分の考える平和としては、人の心や体をやすらかにするものだと思います。もし、日本に平和がなく戦争中だったら日本の人たちの心は、とても傷つくと思います。人には、一つしかない命、それをすきなように再生は出来ません。平和とは、それを守ることなのではないかと思います。

日本の子どもたちの中では、「平和」とは人々が協力して一人一人が平和をつくらなければいけない、と考えている子どもたくさんいます。自分と同じように、戦争は、一人に一つしかない命を奪ってしまうものだと思っている人もいます。

自分の生活の中の平和としては、三食きちんと食事をとったり、友達や家族とふつうに暮らしていることだと思います。少なくとも、僕の周りの人はそう思っているでしょう。

日本の子どもたちの中の生活にも、友達とけんかをして素直に謝ったりすることを、僕と同じ（平和）だと思っているでしょう。

この学習で僕は、いつの時代も平和でよりよい世界になってほしいと思いました。

## 戦争をなくすために

和泉田ひかる

今私たちは、三食ちゃんと食事ができて、友達と遊んで、学校に行くことが当たり前にできます。でも、世の中ではいまだに争いをしている国があります。それに昔、日本も争いをしていた国だったのです。

時は1894年、農民たちは反乱を起こしました。それは、幕府が結んだ不平等な条約のせいでした。治外法権などもそのうちのひとつです。ちょうどこのころ、日本と清（中国）は朝鮮をめぐる争いをしていたため日清戦争は起きてしまいました。さらに逆のぼること10年、日本とロシアは満州をめぐる戦っていました。ロシアをやっつけようという意見が高まり、日露戦争になってしまったのです。つまり、戦争を動かすのは農民など普通の人達でもあるといえます。

1941年には、太平洋戦争が始まりました。食べ物は何もかも配給制になってゆき、衣類までもが配給制になりました。配給されるものもだんだん減ってゆき、人々は苦しみました。鉄や銅、ブリキなどは、兵器の材料にするため根こそぎ集められました。更に、子供までもが戦争とかかわっていました。今では考えられないことです。

そして今でも、まだ戦争で苦しむ子供がいます。そんな人たちのためにあるのが「ユニセフ」です。ユニセフは、世界中で苦しむ子供たちのために活動する国際連合のうちのひとつです。例えば、ユニセフ募金。学校で実施するところが多いようです。この募金は、ワクチンや水などに変えられます。この募金を実際にやったことが前にあったのですが、とても深い理由があったんだなと思いました。

インターネットで平和について調べてみました。これは、池之原小学校のR・Hさんの文の一部です。「平和とは戦争もなく、わたしを支えてくれる家族がいること、友達がいて遊べること、ご飯が食べられること、そして世界中の人々がつながって生きることだと思います。」更に、同じ学校のペンネーム「チョコチップ」さんの文の一部です。「わたしの平和とは争いもなく、家族、友達がいること、食料があることです。戦争は、とてもこわいものです。それを思うと今生きていることがとても幸せです。」

この2つの文を読んで、私は、人が思う平和には、いろいろなものがあるんだなと思いました。食事ができること、友達や家族がいること、戦争のないこと——。一人一人が、平和を願う気持ちを持ってくれていると、改めて思いました。

こんな優しい人たちがいるのに、まだ戦争をしている国があるのです。世界中の人たちだれもが、平和を願う気持ちを持たないと、戦争は、何十年も、何百年も永遠と続きます。そんなことには絶対なってほしくないです。

私たちが、戦争をなくすためにできることは、「一人一人が、いつまでもいつまでもずっと、平和を願い、戦争が1秒でも早く終わるように思うこと」だと思います。戦争はとってもおそろしいものです。人事ではありません。下手をすれば、日本はまた戦争国になりかねません。日本と世界はつながっています。世界中のだれもが「戦争をなくしたい！」と願うことで、また新しい平和が生まれていく。そのことを、世界の人々に知ってほしいと思います。

なぜ戦争が起こるのか？また本当の平和とはどのようなものだろう

市塚日奈子

今、私たちは何不自由なく生活していて、『衣食住』これがあれば生きていける私たち人間。でも、戦争をしていた時代は自分が買える物が制限されていて、人々は多くの苦しみに絶えなければならなかった。私は、時々日本は本当に『平和』なのだろうか。？と思うときがある。確かに戦争はしていない。でも、いじめによりたった一つの尊い命を自殺においこんでしまう。こんなことが毎年つづいていることを平和だと言えるのか。

インターネットでは、「たとえ戦争がなくても人間社会に存在する貧困・不正・差別・抑圧（よくあつ）などの状態が存在する限り、それは“平和ならざる状態”と捉えるべき」と書いてあった。私は、この意見に賛成だ。（戦争をしていなくても何か一つでも問題があれば、平和ではない。戦争の原因は、自分たちの問題を解決できないから、つい力をつかってしまうんだ。）と思う。

こんな戦争をしている国の子供たちは、「一秒でも早く世界に戦争がなくなり戦争のこわさや恐ろしさを知ってもらいたい。」ということだ。私も同じ考えだ。大人の勝手な行動のせいで、いつ自分が殺されるかわからない毎日恐怖を感じている。こんな生活を送っているのが私達と同じ子供だなんて考えるだけでもかわいそうでならない。

なぜ戦争が起こるのか？これは、私の疑問だ。お母さんは、「戦争になるのは、人の良いところを見つけなくて悪いところばかりを見つけてるからだよ。人には、絶対に良いところがあるんだから、人の良いところを見つけることが大切なのに、悪いところばかりみつけるから、戦争になるんだと思うよ。」と言っていた。そして、私は、学校の発表や討論会の事を思い出した。討論会では、賛成反対に分かれる。そして、互いに意見を出し合う。こうしているうちに、だんだん意見が変わったり、こんな事を考えられるなんて〇〇さんすごい。と互いに良いところを見つけられる。発表では先生が指すのではなく、ゆずり合いながら勉強する。そして『人間』としての生き方を学ぶ。私は学校のすばらしさを改めて実感した。

今私たちは、「戦争は、無意味だということ」と「すべての命の大切さ」を忘れてはいけないと思う。これをすべての生き物が分かると**本当の平和**の世界が実現すると思う。そして、お母さんが言っていたように人の良いところを見つけたり、がまんをできるココロをだれもがもてば、たくさんの笑顔が生まれる世界になると思う。私は、こんな世の中になるのを世界の人々が心から望み実現出来ることを願っている。

## 戦争で苦しんでいる子供たち

6年 海老原里奈

わたしは、戦争で苦しんでいる子供たちの生活は、戦争でお父さん、お母さんが亡くなり一人で生活している子供や戦争で食料をなくし、食べられないくて苦しんでいる子供がいると思います。たとえば、お母さんとお父さんが亡くなり、一人暮らしをしていたり、爆弾の衝撃で動けなくなりお母さんやお父さんがいなくてもがんばって生活している人もいます。

そこで、私はなぜ戦争をやってしまうか調べてみました。私は、戦争をやってしまう理由は国と国が戦争をし、その負けた国の町を奪うためや、お金の奪い合いで戦争をやってしまうと思います。それについて私は、なにも話合わずに戦争をやるなんてひきようだと思います。だから、国と国がまずちゃんと話合いで決めてからのほうが良いと思います。

ほかにも、戦争で亡くなった人を調べてみました。

第二次世界大戦では・・・軍人・・・約52% 市民・・・約50%

ベトナム戦争では・・・軍人・・・約5% 市民・・・約95%

第一次世界大戦では・・・軍人・・・約52% 市民・・・約50%

つまり、合計約10万1200人以上の人が亡くなっているのです。もうこれ以上戦争をやったら子供や大人、いや全国の人が悲しむと思います。私は、戦争のえいがやドラマを見ているとかわいそうで、テレビから飛びこんでたすけてあげたいとも思います。でもそういうことは出来ないのです、コンビニにある募金箱や学校でやる募金では、いつも進んで協力をしています。この、募金で世界の人々を助けてあげたいと思います。ほかの人もこれからも1円2円何円でもいいので、募金をしてほしいと思いました。

他にもいらない物 例え、鉛筆や消しゴムなどを捨てないでまず寄付をしてくれたらとてもうれしいと思います。私は、戦争はくだらない事だと思いました。戦争はお金のうばい合いや、町のうばい合いでやるのです。この戦争で何万人、何十万人の人々の命が無くなるのです。私は、お金と命どちらが大事な？人を殺したりしてなにが楽しいの？と戦争をやった人に聞いてみたいです。この国、世界中には戦争なんていない！！と思いました。でも、まだほかの国では人々が戦争を反対をしているのに、戦争をっている国があります。その国は人の意見も聞かないで、戦争をやってしまうなんてとてもひきょうな事だと思います。今、戦争をやっている人は今すぐに「戦争は間違っている」と気づいて戦争をやめてほしいと私は思いました。

## 平和をつくるには

6年 大塚真由

戦争はなぜするのか! 「防衛戦争」とは「他国から自国をまもる戦い」です。「全面戦争」とは「当事国が地域・手段を制限せずぶつかり合う戦い」です。この中でも、私が調べた範囲では、侵略戦争がほとんどでした。「侵略戦争」が多いということは、自分達の生活を守る他の人々の生活を壊す行為が世界中で行われていることが分かります。

「戦争とは何か」を調べて戦争は人間が起こした一番悪いことだと思います。私なりに、まず小さなことを許せる心をもつことだと思います。

戦争中の子ども達の生活と環境は、お風呂も無く、トイレも無い、充分しんぐも無く、何日もきたままの服を着て寝る。服のあるこどもはまだいいほうで、服の無いこどもははだかのままで寝る。こどもたちの手足を見ると、蚊に刺され、虫に食われ、いくつものあざができています。マラリアの発生する雨季にも蚊帳もなくマラリアをわずらう。まして自分の部屋などあろうはずもなく、兄弟家族がなん列もの川の字になりざこねする。キャンプや夏季学校ならいざ知らず、これが毎日の普通の生活なのです。

平和をつくるにはまず、「戦争をしない」という事だと思います。私は、他の国と比べたり、他の国のものを欲しがったりしなければ、戦争なんかなくていいと思います。けれど、戦争がおこる原因は、そんな単純なものではないのかもしれませんが。それに、戦争がおこる本当の一番の原因は人々が自分の意見ばかり尊重する事なのかもしれません。

私は、始め戦争のことなどわかりませんでした。前、お母さんと戦争のテレビを見たときがあります。私が一番かわいそうだと思うところはお母さんとはなれてしまいその子供は「お母さんお母さん」と泣いているそのときに子供の前には爆弾がおこってきて、そのままその子供たちはお母さんと分かれながら死んでしまったのです。私はかわいそうで泣いてしまいました。私が戦争の時代にいたら生きていられたのだろうかと思いました。これからは友達や家族と楽しく仲良くしていきたいと思います。

「平和」のために、出来ることってなんだろう？

6年 田所 じゅん花

わたしが思う平和とは、争いごとがなく、みんなが仲良く、安心して暮らせることだと思う。

なぜかという、争いごとがあると、見ている方もやっている方も気分が悪くなり、仲間同士で対立してしまったり、仲間だった人たちとバラバラになってしまうからだ。仲間同士でケンカをしてしまった時は（ああ、少し言い過ぎたかなあ）と反省し、ごめんなさいと謝ることが大切なんじゃないかと思う。

今も戦争している国があって、なにもしていない人々が次々と殺されていく。満身に食事も食べられなくて、まだ5才になってない子供たちが、栄養失調で亡くなる。

わたしたちは、好きなものを好きなだけ食べて、嫌いなものは残す。このようなことが当たり前のようになってきている。わたしは、嫌いなものは残すけれど、少しでも良いから食べるようにしている。嫌いなものがあったとしても、全部残すのではなく、少しだけでも食べるようにすれば良いのではないかと思う。

ユニセフは、子供の権利を守り、子供が持って生まれた能力をじゅう分に発揮できるチャンスを広げるために活動する国際連合の機関である。

「子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）」とは、世界中のすべての子どもたちがもっている“権利”について定めた条約のことである。戦争に巻き込まれてしまったり、防げる病気で命をうしなってしまうたり、つらい仕事で1日が終わってしまったり…世界には厳しい暮らしをしている子どもたちがたくさんいる。「子どもの権利条約」は、そんな子どもたちをはじめ、世界中の子どもたちの強い味方。ユニセフもこの条約に書かれた子どもたちの権利を守るために活動している。

カンボジアや南米、東南アジアの国の子供たちは、きれいな水じゃなく、どろ水みたいな水を飲んだり、栄養失調など、治せる病気が治せなくて命を落としている。わたしたちは、きれいな水が飲めて、栄養も足りている。そして、学校にも行ける。これは、すごいことだと思う。

自分で出来るボランティアを始める時は、次のように計画を立ててから始めると良いということがわかった。

- 1, 自分にあった活動を考える。
- 2, いつ、どこで、だれと、だれ（何）のために、どのように、なにを？を考

える。

### 3, 活動する。

小さなことでも役に立つことがあるから、困っている子供のために、ボランティアを始めたい!と思う。

世界には、たくさん困っている人たちがいるはず。だから、自分にできることで、小さなことでも少しずつやっていけば、困っている人たちのためになるのではないか!と思った。

戦争をして楽しい、人の命を奪ってうれしい、なんて思う人は1人もいないと思う。なぜなら、戦争をして土地やお金はもらえるかもしれない。だけど、戦争をしても、何一つ解決はしない。ただ、大事なものだけなくなるだけ。そんなことしても、何にも解決しないのだから、初めから戦争なんてしなければいいのに!と思う。

現代にも、人を簡単に殺す人がいるが、「ただ殺したかったから。なんとなく。」そんな理由で人を殺していいのか?

わたしは、これからの未来。何が起こるかわからないけれど、戦争だけは、起こってほしくないな、と思った。

戦争をしたって何も変わらないのだから・・・。

最後に、戦争についてインターネットで調べていたら、わたしの心をゆり動かし次詩に出会った。この詩を読んで、これからも「平和」というものをずっと見つめ続けていきたい。

平和って なんだろう なにが平和なんだろう

平和は この世界の人たちみ～んなが

手をつないで 笑いあえること

くだらない争いなんてしないで

ただみんなであれればそれでいいや

って君は言った

そうだよね

世界のみんなが手をつないで 仲良くなって 笑いあう

そして 一人一人がみんなを思って優しくなればいいよね

今は人なんて簡単に殺してしまう 正直言ってボロボロな世の中だけど

いつか人々は みんなの優しさとか 人が死ぬ悲しさ

あと 生きてることの喜びが解るときが来るよね

だって 未来は僕らが作り上げるものでしょ?

いつかそんな未来にしよう  
今からできることを少しずつでもしていけば  
ホントの平和も そう遠くはないだろうね

---END---

ただ一つや二つ、三つの国が恵まれていて、平和でもそれは世界中が笑っていることになりません。

全部の世界が笑えなきゃ！絶対意味がない！！そう思う。

武器はみんな捨てよう。そしてみんなで笑おうね。

幸せってなんだろう

争いなんかなくなれ みんな平等の世界  
順位もつけるのも人種差別も  
僕は嫌いだ もっと平和な世界になれ  
平和が一番 幸せならいいじゃん  
人の命奪って嬉しい？人の領地を占領して何がいいのだろう？  
事件もなくなれ みんな平和の世界の方がよくない？  
相手も自分もキズつけるだけ 嫌でしょ？  
そんなの楽しい？みんな何が伝えたい？  
そんなの平和と言える？幸せとおもう？  
伝えることがあったら目を見て伝えればいい  
何が幸せか考えてごらん 自分で  
食料も住む場所もあり、裕福な生活  
何か文句あるの？日本国民？  
お金が欲しいの？自分が一番になりたい？  
お金よりもっと大切なものがあるじゃない？  
それは「愛」なの

## 家族のいない子供たちは今どうしている??

6年 中山 瑞稀

親のいない子供たちは、どうしているのでしょうか。戦争で子供たちは親や兄弟たちといっしょにいても、大勢の人々に混乱してみんなとはぐれてしまう子供たちがいます。戦争で十分な栄養がとれず、栄養不足になり毎年五才まで生きられない子供たちが一億人もいます。三秒に一人の確率で毎日、毎日五才以下の子供たちがなくなっています。これはげりが続いておこる脱水症状が原因です。このようなことは、お母さんいなくなりお乳が飲めないなどの原因があります。お母さんがいなくなってしまうと子供たちはかわいそうだなと思いました。このことを知り、戦争は親と子の平和な暮らしまでうばってしまうにかなと思いました。

お母さんとはぐれてしまっなくなってしまいう子供たちのために『親子再生プロジェクト』というプロジェクトをやっています。このプロジェクトは、「親や兄弟とはぐれてしまった子供たちを少しでも多くの家族にもどしてあげたい」と言うみんなの気持ちで立ち上げられたプロジェクトです。わたしはこのプロジェクトにとっても賛成しています。親とはぐれお乳が飲めず死んでしまいう子供たちがいっぱいいるのでこのプロジェクトで多くの子供たちを救ってほしいです。

しかし、外国だけでなく日本でも戦争中の子供たちは、親とはなれていなかのほう学童そかいをしました。政府は大きな都市にいる3. 4. 5. 6年生を学童そかいさせてました。これは、将来の兵士として育てるためでした。このそかい場所は寺や旅館が多かったです。茨城県も東京から、6, 544人の子供たちがそかいしにきました。わたしは、日本でも子供たちがお母さんやお父さんとはなれて暮らしていて戦争で子供たちは将来、兵隊になるためにそかいさせたなんて子供たちがかわいそうだと思います。

わたしは、このようなことを勉強して貧しい子供たちに何かやってあげたいなと思いました。それでわたしは募金のことについて調べてみました。募金ではユニセフハンド・イン・ハンド募金という募金があります。この募金はアフリカの貧しい子供たちの命を守るためにこの募金活動を行っているそうです。

わたしも、「ドラえもん募金」という募金に参加しました。赤い羽根とこうかんして募金します。わたしもその募金にお参加しました。「募金したお金が世界中の貧しい人たちに使ってもらえるなら・・・。」と思いながら募金しました。わたしは、このことを調べて戦争は意味のない戦いだなと思いました。

戦争をやってもぎせい者がでたり、大切な家族を失ったりと、なぜこんな戦争が行われてしまったのだらうと思いました。その戦争でみんなが混乱して小さな子供たちは親とはぐれてしまったりして食べ物がなくなったりして多くの子供たちが毎年亡くなっています。しかし今、親とはぐれ苦しんでいる子供たちのために『親子再生プロジェクト』というのをやっていました。わたしは、戦争に勝ってもなにもうれしいことはないと思います。世界の人々との小さな争いで戦争になってしまうのなら、世界のみんなと仲良く平等に暮らしていけばいいのかなと思いました。また、わたしも、戦争で苦しんでいる子供たちのためにできることはどんどん進んでやっていきたいと思いました。

## 戦争中に生きてきた子供たちについて

6年広沢 吏南

戦争当時と現在では、食べているものはちがいます。戦争当時は、塩やすいとん、トウモロコシ、コウリヤン、おからまんじゅう、どんぐりパン、草団子など現在では、あまり耳にしないものを食べていたそうです。

それとは反対に現在は、ハンバーグなどのおかずやご飯、おかしなどを食べています。

子供たちは、戦争を早く終わってほしいと願ったのだと思います。わたしは、マンガ「はだしのゲン」とアニメ版「ガラスのうさぎ」の本を読んで、この結論を出しました。どちらの本も、主人公が原子ばくだんや放射線を浴びたことによって起きる病などで、家族を失います。でも、どちらも「戦争を早く終わってほしい」と願いました。わたしは、戦争では、家族だけではなく、平和になりたいという気持ちまでもなくなってしまうので、二度と起きてほしくないと思います。

食事では、昭和19年末までは、都会でも食べ物がありませんでした。しかし、戦争が始まってからは、食べ物が少なくなり、今まで食べられた物も配給制や切符制になってしまいました。おもに、配給、切符制になっている食べ物は、さとう、小麦粉、卵などです。

家族では、お父さんやお兄さんが兵隊に行ったり、大都市に住む小学三年生から小学六年生まで敵の攻撃をさけて農村などに疎開するなど、戦争中は、家族がはなればなれになってしまいます。だから、家族に会えずに亡くなってしまった人も多いと思います。

学校では、空襲に備えて訓練をしていました。また、先生が子供たちに、戦争に協力する教育がしていました。でも、家族に戦争を反対する人がいれば、非国民と言われ、いじめられたり、何か問題があった時、先生に疑われたりもしました。

髪型では、戦争当時は男の子は、ぼうず刈り、女の子はおかっぱでした。女の子は当時、パーマが流行していましたが、禁止されていたので、できませんでした。私は、これを見て、戦争は、命だけでなく自由もうばってしまうんだと思いました。

疎開には、二つの種類があります。一つは、集団疎開です。集団疎開は、学校ごとに先生が引率して田舎にいて、朝から空しゅうがある時は、近くのお寺で勉強したりして生活しています。もう一つは、縁故疎開です。縁故疎開は、

一人で親せきや知り合いの家に身を寄せ、生活することです。ただし、どちらの疎開にしても、食料が不足していて、手にはいった食料を食べてくらししていました。それがなかった場合、いなごなどの生き物を食べていました。

子供たちが疎開した時思ったことは、縁故疎開の場合、兄弟や親、友達とはなればなれになってしまうので、さびしかったのもあったし、自分が疎開してる間に家族が活着ているかどうか分からないので、心配もあったのだと思います。

私が思う戦争を二度と起こさない方法は、二つあると思います。一つは、国どおしが話し合えばいいと思います。人間は、言葉で話し合い、分かり合うことができるので、これなら、戦争が起こらないと思います。もう一つは、国どおしが仲良くなることだと思います。国どおしで何かもめ事が起きたとき、話し合いをして仲良くすればいいと思います。

今まで調べたことから、二度と戦争を起こさないために、国どおしが話し合うべきだと思います。理由は、どんな争い事でも話し合えば解決できるからです。

小さな欲望や怒りのために、家族や友達の命、食べ物、自由などをうばわれて、たとえ、何かを手に入れたとしても、戦争で傷ついた人々の心をいやすことができません。なので戦争は、この先の未来にも二度と起きてはいけない物なのです。

苦しい思いやつらい思いをしている人をどうしたら救えるのか

6年 浅香 里奈

わたしが想像する戦争とは、死者がでたり心苦しい思いやつらい思いをさせる最大の敵です。なぜかというと、戦争が起きれば死者がでたりして人口が減るし、家族の中で死者がでて、苦しい思いやつらい思いをせさせるからです。戦争が起きる原因とは、アメリカ合衆国のアンテベラム時代におけるどれい制の複雑な問題、れんぼう主義に関わるむじょんする理解、政党政治、かくちょう主義、などです。国と国が戦争し負けた国の町を奪うために戦争が起きるんだと思います。

インターネットにこう書いてありました。地球統一政府か国と国が助け合って、町に爆弾を落として勝とうとするような悪い心を持っている人のその暗い気持ちをなくし、明るい気持ちを持てばいいし、複雑だから事故がおき、複雑だから戦争がおきると。だから、りん人とは仲良くできるようにりんごくとも仲良くしたり、戦争正当化の世論を作らせなければいいと思います。

苦しい思いや辛い思いをさせないようにするには、戦争をして勝とうとするような暗い気持ちをもっている人のその気持ちをなくして、明るい気持ちをもっている人になれば、戦争がなくなりみんなが苦しい思いや辛い思いをせずにみんなが平等で幸せな暮らしができると思います。

これを調べて分かったことは、戦争が起きないようにするには地球統一政府か国と国が助け合って町に爆弾を落として勝とうとするような悪い心をもっているその暗い気持ちをなくし、明るい気持ちをもてばいいと思いました。

## 原爆の恐ろしさとは

新井 一謙

ぼくがこのテーマを決めた訳は、昔広島と長崎に原爆が落とされて、人々はどのくらい苦しめられてきたのかを調べてみたくなったからです。

原爆の恐ろしさについて思ったことはたくさんあります。原爆は、建物や工場など、さまざまな物をこわし、人の命までうばってしまいます。原爆は本当に恐ろしいものだと思います。

広島と長崎では、原爆に苦しめられてきた人がたくさんいます。原爆は何万人も死者を出し、家や人をふき飛ばし、そして熱線や放射線をまきちらして々を苦しめました。この原爆で出た広島の死者の数は約20万人、長崎で出た死者の数は14万人だそうです。焼けたりこわれたりする家は、広島6万2千戸で、長崎1万5千戸です。死にはいたらなかったけれど、放射線や熱戦を浴びて、実際には影響はほとんどないと思われましたが、何十年か立つと発しょう病や発血病でなくなる人も多いそうです。原爆でこんなに多くの死者や建物がこわれたりして、とても恐ろしいと思いました。沖縄でも、アメリカ軍による上陸攻撃で、日本人が約18万8千人も死んだそうです。それも関係のない人まで、アメリカ軍は殺しました。とてもひどいと思いました。

原爆は、すごく小さいのにこんなに多くの死者をだすなんて恐ろしい力をもっていることが分かりました。日本は戦争が終わったけれど、まだまだ恐ろしいことはいっぱいあります。たとえば、暴力事件や殺人事件などです。こんなことがなくなるといいと思いました。まだ戦争が終わってない国が、まだまだいっぱいあります。戦争をやっていると食料や、水、石油、そして人までうばってしまいます。だからほかの国も戦争を終わらせてほしいです。この地球から、戦争がなくなり平和な世界になってほしいです。

## 戦争をなくすには

大谷 典聖

ぼくが戦争について思っていることは、たくさんあります。戦争は、建物や家などいろいろな物をこわし、人の命までうばってしまいます。それも、なんの関係もない人々まで殺されたりしてしまいます。それを考えると、戦争なんか無くなればいいのになと思います。

戦争では多くの被害がでます。戦いに行っている人はもちろん、戦っていない町の人たちまで殺され、死者は何百人、何千人とでます。たとえば、広島や長崎の原子爆弾は、すさまじい爆風で人や家、看板など、いろいろな物をふき飛ばし、熱線や放射線をまきちらし、人々を苦しめました。原爆が投下されてから約六十年たった今でも、放射線を浴びてしまった人たちは、突然病にたおれたりして苦しんでいます。

この時出た死者は、広島で約20万人、長崎で約14万人もいました。また、焼けたりこわれたりした家が広島で約6万2千戸、長崎で約1万5千戸もありました。そのほか、東京大空襲では、そかいしていた学生たちがちょうど帰ってくる3月だったので、一晩で約8万人という多くの人々が死に、約100万人に被害がでました。沖縄でのアメリカ軍上陸の時には、軍人、一般住民など、約18万8千人の人が死んでしまいました。

現在、アフリカなどで、かなりひどい戦争が行われています。その戦争には、なんと子供までまじっていました。少年兵という、武器を持たされて戦う子供たちです。大人たちは、その子供たちに地雷をふませたり、人を「殺す」ことを教えたりしています。そういうことをしていると、その子供たちはささいなことで暴力をしたり、平気で人を傷つけたりしてしまいます。もう、そんなことはやめてほしいと思います。

戦争は日本でもおこっています。「戦争」といっても、死者が何百、何千人もでる大きな「戦争」ではありません。それは、殺人、暴力事件です。これらは、人々との間でおこる、心の戦争です。相手がきにくわないからといって、殺したり暴力をしたりするのはいけないことです。戦争を二度としないことを約束した日本も、これではまだ「平和」とは言えません。もっと事件が少なくなるとういなと思います。

今までたくさんの戦争がありました。どれもその原因は国や食べ物、水などをめぐっておこっています。たとえば、弥生時代、日本では食べ物、水をめぐる戦いが多かったらしいです。日清、日露戦争のときも、原因は朝鮮をめぐる戦いでした。

このことから、戦争を起こさないようにするには、世界のたくさんの国どうしで仲良くし、どんなことでも話し合って決めるようにすればいいんじゃないかと考えます。みんなで仲良く、戦争の無い世の中をつくれたらいいなと思います。

## 戦争をなくすためにできる事

大森貴行

僕は、社会の勉強をしてとってもかわいそうと思ったことは、ドイツによってユダヤ人が虐殺されたことでした。しかも、殺し方が赤ちゃんでも裸にされガスを吸わされたり、生きている時にそのまま焼かれたり、鎖でしばられそのまま撃たれて死んでいたりして、とてもかわいそうだと思います。

その一方で、ユダヤ人の命を助けた人がいました。その人の名前は、ドイツ人のオスカーシンドラーと日本人の杉原千畝さんです。僕は、とても勇気のあるすばらしい人だと思います。また、日本人でそんな人がいたなんてとてもほこりに思います。しかし、最近の日本では、殺人事件を起こしたり大麻を売ってお金にしたりする人がたくさんいて、とても悲しく思います。

1945年日本に原子爆弾が落とされました。原子爆弾は、地面に落ちてから爆発するのではなく、上空で爆発するそうです。爆弾で放射線を浴びると後から苦しみます人もたくさんいるそうです。ぼくは何でこんな原子爆弾を落としたんだろうと思いました。

原子爆弾が落とされる前には日清戦争や日露戦争もありました。この2つの戦争でも、たくさんの方が亡くなり多くの建物がこわされました。結果は、どちらも日本の勝ちでしたが、失われたものはもうもどりません。

ぼくは、もう二度とこのような戦争はあってほしくないと思いました。また、今でも戦争をしている国があることを知り、世界で戦争がなくなってほしいと思います。また、これから自分でできることは何か考えましたが、苦しんでる人のために募金活動をしたいと思いました。少しでも自分が何かの役に立てればと思います。

## いじめ、殺人があつて日本が平和か？

齊藤 優

今、世界で今も子供たちが、機関銃を持って戦争にかり出されている。でも今の日本はどうだろう。いじめや人の命をうばってしまう人がいる。これがほんとうに平和といえるのでしょうか。

まず、いじめに関することを話しましょう。いじめは、親が見えるところだといい子です。その逆に親が見えない所ですと悪い子になって、みんなをいじめます。これはいじめのランキングです。男子1位は悪口、2位はける・殴る、3位は仲間はずれ。女子は1位は仲間はずれ、2位は悪口、3位は物を隠す。これらのことから心が傷つき、かけがえのない命をうばう大きな罪になることがあります。いじめで不登校になる人もいるし、いじめで自殺する人もいます。ある人は、机がぽつんと教室の片すみに置かれてしまいました。また、ある人はインターネットの闇サイトで自分の悪口がたくさん書かれているのを見て、傷つき自殺してしまったそうです。

次に話すのは殺人の話です。なぜ人と言う生き物は、同じ人間を殺したりできるのでしょうか。自分のストレスに絶えきれず、人にあたり殺してしまう。ストレスに絶えきれず自殺する人もいます。一人で死ねないと言って、何十人と言う人を巻きぞえにする人もいます。

日本は今戦争をしていませんが、いじめや殺人あります。これでは、戦争があったころとなにかかわらないと思います。これをどうにかしないとだめだと思えます。いじめを見かけたら止めて下さい。だれかが止めないといじめは無くなりません。何度も言いますが、嫌なこと、傷つく言葉をいわれてうれしい人はいません。いじめで不幸になる人はいませんが、幸せになる人は一人もいないのです。

## 戦争の恐ろしさ・ひどいいじめ

坂入 拓斗

僕は、パソコンで戦争の恐ろしさのことをインターネットで調べました。そしたら「7歳で兵士」という内容がでてきました。書かれている内容は、7歳で兵士になった子供にインタビューをしたところ、インタビューを受けた69人のほとんどが、何かしらの兵器をもたされて戦闘に加わったことがあると言っていました。30人は、自分たちが加担した闘いのようすを克服に描写し、14人は、加わった戦闘の数が多すぎて「覚えていない」と証言しているほどでした。7歳で戦争に加わるなんてとんでもないと思いました。

次もまた戦争に関する内容です。インターネットで調べました。「地雷は悪魔のおもちゃ」というのがでてきました。これは、最もひどい話です。戦争で仕かけられた地雷を、子供を走らせて踏ませて爆発させるという、最もひどい話です。僕は、そんなことをさせるなんて戦争は、ほんとうにひどいと思いました。子供たちや親もかわいそうです。

この内容は、いじめに関することです。これは学校で起きたいじめです。男子のいじめでは、一位悪口 二位ける・殴る、三位仲間はずれです。男子もひどいけど女子もひどかったです。女子一位仲間はずれ、二位悪口、三位物を隠す・汚す、です。ほかにもひどいいじめがありますが、こんなひどいいじめをされていてかわいそうだと思います。

次もまたいじめに関する内容です。前の内容とすこし似ていますが、これもひどいいじめかたです。今、小中学校で暴力が増加しているらしいです。小学校の暴力はそんなにひどくありませんが、中学校では最もひどい暴力をしているそうです。中学校では血が出るまで暴力をする人もいるそうです。小中学校で暴力行為をするところは458件に上るそうです。暴力は怖いです。高校では暴力もありますがネット（インターネット）でいじめる人たちが急増しているそうです。ネット（インターネット）でいじめている人たちは、ばか、あほ、死ね、うざい、消えろなどとんでもないことを書いているそうです。このようなサイトを「闇サイト」と言います。闇サイトは、みんなで集団となって人をいじめるとても重い罪です。絶対にやめて下さい。自分も傷つきます。ぼくは、「闇サイト」は、いらないと思います。

## 戦争の恐ろしさと世界の平和

佐藤 克弥

ボクは、戦争の恐ろしさと世界の平和について考えてみた。6年生になって、「はだしのゲン」という本を読んだことがあり、とても感動した。それと同時に、戦争はこんなに恐ろしいんだなと思った。

まず、戦争は恐ろしいと思ったのは、原爆が投下された時、広島市周辺にはすごい爆発が起きたことだ。この爆発はすごい勢いで広島市を焼け野原にした。

ほかには原爆の放射能だ。これを体でをうけると、皮膚がはがれてしまう。放射能をうけて火傷をした人はみんな水を求めながら死んでいったそうだ。

放射能の1番こわいところは火傷などもせずに助かっても、数十年後に病気でなくなる人が多いということだ。

次に、戦争は恐ろしいと思ったのは社会の授業で習ったことごとだ。日中戦争と日ロ戦争では、多くの人が犠牲になり、たくさんの人が傷ついた。

次に、世界の平和について考えた。世界には戦争のない平和な世界を求めている人々が何十万人もいる。その世界の平和を求めている人の願いを実現させていくのが、国際連合やユネスコという機関だ。国際連合は、教育などいろいろな面で活躍し、ユネスコは世界の自然遺産や世界遺産などを守っている。

次に、自分でできることは何か考えた。自分にできることは、戦争の恐ろしさを後世に語りつぐことだと思う。今は実際に戦争にあった人が少なくなっている。だからぼくたちが後世に戦争の恐ろしさを伝えることが大事だと思う。

次にぼくが実際に話を聞いて分かったことは、戦争の時男性が20歳になると、赤紙という紙が送られてきて軍隊に行き、訓練をしてから戦場に行ったそうだ。それを恐れ、逃げる人が多かったそうだ。けれど、逃げたとしても、憲兵にとらえられ、戦場に行く人も多いと聞いた。ある家族は、息子が戦争に連れて行かれそうになり、息子は逃げたが、差別を恐れた母親が家族のために息子のことを憲兵に知らせたそうだ。たぶん母親は、「もうこれ以上苦しんでほしくない。」と思ったのではないだろうか。

ぼくは、こんなにも世界で戦争が起きているなんて知らなかった。それにその戦争のせいで、多くの犠牲者を出していたなんてとてもびっくりした。でも、その戦争を止めようとしている機関があるのを知って安心した。でも、あるから安心と言うわけでもないと思う。なぜなら、今すぐに平和な世界をつくれるわけではないからである。だが、今はできないが、10年後20年後と、時を重ねるごとに少しずつ実現していけばよいと思う。

## 世界で1番殺人がもともも多い国

島野 暢弥

世界では殺人事件があります。理由もないのに何故殺すのでしょうか。人を殺しても何の得にもならないのに何の意味があるのでしょうか。世界では毎日のように殺人のニュースがあります。殺人もそうですが、もっとこわいテロ事件のニュースがあります。テロはビルやドームホテルなどに爆弾を埋め込んで爆破させて中にいる人たちを巻きこんで、たくさんの命をうばいます。なぜ、こんなことをするのでしょうか。

日本にも、最近人の命をうばう事件が増えてきています。安心して外を歩けない国になってしまったら困ってしまいます。日本だけでなく、世界中で殺人がなくなればいいと思います。世界中の人たちの笑顔が見れるようなニュースがたくさん増えればいいなと思います。

## 「世界」と「日本」通じ合い

永盛 青空

みなさんは、現在の日本のかわりについて考えたことがありますか。現在の日本は、社会でも勉強したように、「ユネスコ」など、被害を受けた国などに、「救助チーム」としても国と国どうしでかかわっています。

しかし、日本と仲の悪い国もあります。ロシアや北朝鮮などは日本とのコミュニケーションや貿易がとれていません。僕は、「戦争」をせずにもっと、「世界の輪」を広げられればいいな。」と思います。

戦争といえば「原子爆弾」の落とされた広島市の物語「はだしのゲン」です。僕は家族を失ったゲンはとても悲しかったと思います。時代が悪かったのもありますが、それを平気で原爆を落とすアメリカの人はとても許せません。原爆で、何万人の死者が出てとても残念です。しかし、この時代でこのような発言をすると、「非国民だ。」と言って刑務所に入れられてしまいます。僕は、家族を失うことはとてもいやです。家族を失いながらも力強く生きるゲンはすごいと思いました。戦争は、「心の輪」をこわしてしまうものです。

しかし、世界には子供の兵士がいたり、じゅうぶん食事ができない人々がいるのです。戦場に行きたくなくても連れていかれてしまう時代だったのです。子供の兵士は、「こなかったら親を殺す。」「食べ物は食わさないぞ。」などの言葉で戦場にむりやり連れていかれることもあったそうです。

じゅうぶんに食事のできない人々はどぶ水や雑草を食べて生活し、やがて道ばたでたおれ死んでしまいます。

僕は、戦争があるからこのようなことになってしまうのだと感じます。「戦争は国民のことや国のことを考えず、何もかもなくしてしまうものだ。」と思います。これからの日本のために「日本国憲法」では3つの柱、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」など様々なきまりをつくりました。戦争を2度としないように軍隊を解散させることや、女性の選挙権や新幹線の開通など日本はとても変わっていきました。

僕は、貧しい人々や食事をとれない人々にボランティア活動をしたいと思います。戦争の理由は貿易が悪かったり、国と国とのかわりがとれないことが原因だと思います。これからは、国と国は協力しあっていかななくては、国際交流がくずれてしまうと思います。

僕は「世界の輪」を広げ、国の差別をなくすべきだと思います。みなさんも、今の自分の生活を見直し、世界に目を向けてみてください。

## 戦争をなくすにはどうすればいいか

福島 有貴

テレビのニュースで国が戦争をしているニュースをよく見ます。ぼくは、戦争をどうすればいいかと思ってこのテーマにしました。現在、世界ではいくつかの国が戦争しています。さらに、国際テロリストグループや独立推進派などいろいろな組織が戦争に加わっています。

今戦争をしている国の人々は、十分に食事を取ることができず、子供たちは学校にいけなくてとてもつらいと思います。

戦争をするといろいろな被害が出ます。たくさんの建物がこわされ、町などがめちゃくちゃになります。そしてたくさんの死者がでます。家族が戦争に行って、その家族が死んだ知らせが届いたら、とても悲しい気持ちになると思います。

なぜ人は戦争をしなければいけないと疑問をもちました。そしてぼくは原因はいろいろあることを知りました。原因は、自分たちの領土を広げるために戦争したり、食料が少なくなって食料を求めて戦争したり、石油も求めて戦争をしたりします。ほかにも宗教問題や利権問題など、いろいろな問題で戦争を起こします。自分たちの国のために戦っていることが少しだけ分かりました。でもぼくは人を犠牲にして戦争をしなくても、国同士が仲良くして行って、お互いが分かり合えるようになって、いろいろな問題を解決して行っていけばいいと思いました。

この地球から戦争がなくなって、平和な世界ができるとよいと思いました。

## 差別のない平和な世界にするにはどうしたらいいか

松村 浩一郎

差別には、自分たちの周りにある差別や昔あった差別、世界の差別などいろいろな差別があり、その差別のせいで嫌な気持ちをしてる人がいっぱいいると思います。その人たちはこんな風に思っていると思います。あぁなぜ差別はあるのだろうか、差別がなければもっと自分の人生違ってたかもしれない……  
「はぁー」とため息をつくと思います。だから僕は、差別のない平和な世界にするにはどうしたらいいかというテーマで、差別をどうやってなくすか考えたと思います。

自分たちの周りにある差別で、言われて嫌だと思った言葉は、「あっそー」「バカ」「おまえしゃべるな」「うせろ」「消えろ」「近寄るな」「嫌い」「チビ」「キモイ」「うざい」「行動が遅い」「汚い」「ガイジ」などです。ぼくは、これを見た途端、「あぁなんて酷いんだろう。こういう事を言う人は、自分がやられたら嫌なくせに、全く人の気持ちも考えていない。」と思いました。昔にあった差別は、身分制度で非人間扱いされてという話を聞きました。なにがきっかけでそんな事になってしまったのかとても疑問です。人間平等に暮らしていければいいじゃないか、人に身分なんかつけてなにがおもしろいんだ。と思います。

世界には、18歳未満の子供の兵士が三十万人もいるそうです。戦争で犠牲になったり、鉄砲で人を殺したりしている子供たちがいるなんて、とてもひどいと思いました。だからそんなことは、なにがあろうと絶対にそんなことはあってほしくないと思いました。

差別はなぜあるのか、ぼくはこう思います。差別をする人はなにかしら理由があると思います。そして一人じゃ何も言えないから、だれかを連れてきて仲間になります。だけど、こういうものは全部言い訳です。どんな理由があるにせよ、みんなで一人をいじめることは絶対に許されません。そしてだれとでも仲良く楽しく暮らせていければいいと思います。

差別をなくすには、このことについて真げんに考えることが大切です。いじめをしてる人はよく考えてほしいです。

## 殺人事件について思ったこと

渡部 浩介

ぼくは、このテーマと決めたのは、このごろ殺人事件が多くなってきたので、殺人事件がなくなってほしいと思いこのテーマにしました。

2008年11月18日に、さいたま市で事件がありました。元厚生事務次官、山口さん【66】男女2人が、胸や腹から血を流して、死亡しました。この殺した犯人は見つかっていないそうです。

また同じ日に、東京中野区の、吉原健二さん【76】の妻靖子さん【72】の2人が、ナイフでさされて死亡しました。これも犯人はまだ見つかっていないそうです。その後、その犯人が、11月25日に見つかりました。この犯人は、刃物をいっぱい持っていました。

殺人はいやです。どうして人を殺してしまうのでしょうか。どんなことがあったのだろう？こんなことをする前に、だれかに相談できなかつたのでしょうか。

日本の殺人事件の件数は毎年減少傾向にあり、1985年【昭和33】には、2683件だったものが、2007年には、戦後最低の1199件と記録しました。このまま殺人事件の件数が減少していけばいいなと思いました。でも、2008年11月18日の殺人事件が、2件も1日にあるなんてすごく怖いと思いました。この2件とも、ぼくらの住んでいる関東地方の殺人事件なので、すごく怖いし危ないなと思いました。

暴力を振られたならばやりかえすのではなく、話で解決することが大切だと思います。暴力を振られた人がやりかえすと、もっともっとひどいことになってしまいます。

ぼくは、この殺人事件のことについて、いろいろなことが分かりました。それは、このごろの殺人事件のことや殺人事件の件数、暴力のやりとりや殺人犯の気持ちのことなどを調べてみました。ぼくが住んでいる、地域でも、いつ殺人事件が起こるかわかりません。こんな悲しい事件がなくなればよいと思います。

## 食料問題について

渡邊 哲郎

今、この日本にも食料問題が相継いでいます。食べ物の値上がりなどいろいろな食料問題があります。また、世界では食料が不足して暴動などが起こったり穀物の無駄などがあると思います。また、値上がりのせいで学校での給食も困っています。

それで、一部の学校には弁当の持参のところもあると思います。理由は、食料が値上がりしているから学校の給食も困っているからです。ですが、食料が値上がりするとご家庭での食事も困っていらっしゃると思います。また魚や家畜などが減ってとれなくなってしまう、その魚や肉が高級食材になってしまうということもあると思います。僕は、たらこが減ってしまい、たらこが高級食材になってしまうことをテレビで見たことがあります。それで僕は、魚や肉が減ってしまい、食料が値上がりしているのだと思います。

世界ではオーストラリアでの干ばつで小麦がとれなくなってしまったということもあったみたいです。南アフリカでは、肉類や、乳製品があまりとれなかったそうです。また、穀物の一部は家畜に食べさせるものもあるので人間が食べる穀物も減ってきていると思います。それで僕は、家畜が食べる食べ物をできるだけ増やして、そして人間が食べる穀物が残って食べられるはずですが、また、その他にも食料が不足して暴動も起こったと思います。なぜ食料が減って暴動が起こってしまうのでしょうか。そしてなぜ食料が不足してしまったのか。理由は分かりませんが、僕はたくさんの方がうえじになって死んでしまうので食料を増やしてほしいです。でも米はよくとれているので良かったです。今世界では、食べたくても食べるものがなく、死んでいく子供たちがたくさんいるそうです。その子供たちに比べたら、ぼくたちはとても幸せだと思います。これからは食料をむだにしないで大切にしていきたいです。

## 世界の子供達が苦しんでいること

大久保 藍莉

私達は、今こんなに食べ物を食べられているけど、違う国では何にも食べられない国があります。私はお母さんやお父さんに話してもらいました。とても感動しました。

世界には食べ物を食べられなくて、病気にかかる子供がたくさんいるそうです。食べるとしてもどろ水を飲むそうです。こう言うこともあるそうです。どろ水を飲んでどろ水の中にばい菌が入っていることもありそうです。それで、たくさんの子供が亡くなっています。私はそれを聞いたことにかわいそうだと思います。

食べ物を食べられない国は子供、大人がたくさん亡くなっています。毎年、九百二十万人の人達が亡くなっています。日本は食べ物がたくさんあり、その国に比べたら、日本は幸せだと思います。このような、亡くなる人が多いので、たくさんの子供達、大人達がこのようなことで苦しんでいます。

学校に行けない子供達は、お金がないので行けなく、その代わりに家でたくさんのお仕事をしているそうです。親と一緒に食べ物をとって来たりします。

テレビで世界の学校のことについてのテレビを見たとき、学校に行けない子供達は一日中働いていました。男の人と男の子は、何かを作ったりしていました。女の人と女の子は、食べ物をとって来たり水を運んで来たりします。その子たちは、仕事がひまになったら木を鉛筆代わりにして地面に書いていました。その国に行った日本人の人はそれを見て泣いていました。私も涙が出てきました。

学校に行っている子供達は鉛筆があまりないので、ケンカをすることが多いのです。学校にいる子供達は、十人ちょっとぐらいしかいません。中には、外で勉強します。雨の場合は教室でやります。教室はとても小さいです。

日本の子供達と世界の子供達をくらべると、世界にはかわいそうな子供達がたくさんいました。このかわいそうな子供達に比べてみれば、日本やアメリカなどの国は幸せです。

このかわいそうな子供達や、お父さんやお母さんを亡くした子供達は近所の子供達のめんどうを見たりします。私は、「えらいなあー」と思いました。このような子供達のために、日本は募金活動などをして協力していることを知りました。これから私も、そのような活動に進んで協力したいです。

## 戦争によって傷つけられているもの

加藤 美聖

戦争は人々を傷つけるだけでなく、心まで傷つけてしまうと思います。私は「ミーシャの戦争」というドラマをみてそう思いました。

昔日本が戦争をしていたときは、今みたいに「戦争はしてはいけない。」など戦争に反対するようなことを言うてしまうと、「非国民」といわれつかまってしまうことがあったそうです。だから戦争に行きたくなくても、無理やりつれていかれたり、小学校でも戦争（戦い）の練習をさせられたそうです。私はこのことを知ってその人達がかわいそうだと思います。政府が勝手に決めた戦争なのに、関係のない人まで巻きこんで命をうばっていく・・・そんな意味のない戦争は絶対にしてほしくはないと思いました。

戦争は人の笑顔、幸せもこわしてしまうと思います。例えば、広島や長崎に原子爆弾が落とされたときは、お父さんやお母さん、友達、おばあちゃんやおじいちゃん、ペットなど自分が大切にしていたすべてのものが、一瞬にしてなくなってしまうました。その時、自分がそこにいたらどんな気持ちだったでしょうか・・・食べ物もなにもない場所に、自分ひとりぼっちで・・・そんなにつらく苦しい生活だったら、きっと「生きる意味って何だろう・・・」と考えこんでしまうと思います。

そんなつらく苦しい戦争を人間はなぜ続けるのでしょうか・・・戦争はわたしたちの身近でも起きていると思います。例えば友達とのけんか。これは相手のことを考えず、自分勝手な言動・行動が原因でおこっているものだと思います。これは戦争だって同じです。自分の国の領土を広げようと勝手に戦争を仕かけて、罪のない人々の命を次々にうばっていく・・・そんなこと絶対に許されないことだと思います。

今は戦争に子供まで使ってしまう時代です。私たちは今の生活が当たり前だと思っているけど、戦争のせいでそんな当たり前の生活ができない人たちだったくさんいるのです。

そんなつらく苦しく悲しい世界より、みんなが仲良く、笑ってられる明るい楽しい世界になってほしいとわたしは思います。

## 世界と自然のつながり

佐藤 優夏

今、私たちは、普通にこの自然の中で暮らしています。しかし、昔はこれが普通ではなかったことを戦争経験者の人たちに教えてもらいました。戦争があったころは、今普通に暮らしている子供たちも戦争があり、とても苦しい中で暮らしていたことがとてもよくわかりました。戦争をしていては、木々が焼け自然が破壊されます。今でも他の国では、戦争をしている国があります。その中で暮らしている人は大変なんだと胸がしめつけられます。なので、戦争は絶対にしてはいけない事だと強く思いました。

今、この日本でも自然の問題があります。それは、地球温暖化です。どの国でもこの地球温暖化の問題をかかえています。この地球温暖化を解決するためにできることはないか、国々で話し合っているそうです。まず、自分でもできることは、今の自然の状況をよく知る事です。よく知り、その中でできることを探せばいいのです。地球温暖化が原因で、北極と南極の氷が溶けだし、沖縄では、ジュゴンが危機になっています。

地球温暖化があるので、CO<sub>2</sub>の削減も強化されています。CO<sub>2</sub>を減らすためには、節水・節電をするといいと思います。家庭でも実行することができます。たとえば、1. 水道の水を出しっぱなしにしない。2. 電気製品の主電気をつけっぱなしにしない。3. 近距離への移動は、徒歩、自転車で行く。などまだ様々なことがCO<sub>2</sub>を減らすことのできる手段です。そして、今CO<sub>2</sub>の大きな原因は、自動車です。自動車から排出されるCO<sub>2</sub>が原因の元になっています。

愛媛県では、みかんのしぼりかすを燃料にしているそうです。CO<sub>2</sub>を削減するために、石油に変わるとされる「バイオエタノール」をみかんのしぼりかすから作ってしまおうと考えているそうです。このように今、CO<sub>2</sub>の削減にとても力を入れていることがよくわかりました。

しかし、そんな中この環境でもうれしいことがあります。それは、世界遺産です。世界遺産にもいろんな種類があります。文化遺産、自然遺産、複合遺産です。日本にも世界遺産があります。文化遺産は9か所、自然遺産は3か所で、屋久島・白神山地・知床です。今環境があまりよくない日本でも、自然遺産があることはとてもいい事だと思いました。

私は、自分にも環境をよくするためにできる事がたくさんあると思うので、ぜひ、環境にいいことを実行したいと思います。そして、自分でできる事が世界の人たちのためになればいいと思います。

## 世界の子ども

永盛 真由

世界の国々の中には、今もまだ戦争をしている国がたくさんあります。戦争している国では、大人だけが戦争して戦っているわけではありません。子どもたちも、”子ども兵士”として銃を持って大人たちと一緒に戦っているのです。こうして子ども兵士となり、戦っている子どもたちは世界中に30万人いると言われていています。

そして、つらく悲しい戦争が終わっても、戦争の時にうめられた”地雷”によって、たくさん子どもたちが苦しめられているのです。地雷の犠牲になってしまうと手や足や腕がなくなってしまうので、やっと戦争が終わり、学校に行けるようになっても勉強ができなくなってしまうのです。

日本も、昔は戦争をしていました。その戦争でもたくさん子どもたちが犠牲になり、死んでしまったり、親と離れ離れになってしまったりしました。

戦争は大人たちが勝手に始めたものなのに、子どもたちが犠牲になるのは、おかしいと思います。親と離れ離れになってしまった子は、とても怖い思いをしたんじゃないかなと思い、とても胸がしめつけられました。

戦争が始まったり、地雷の犠牲になってしまって、学校に行きたくても行けなくて困っている子どもたちは、世界中にたくさんいます。

このほかにも、子どもたちが学校に行けない理由があります。それは、仕事をしなくてはならないからです。両親が働いても生活していけるお金が足りず、働かなくてはならないのです。

そして、子どもたちが働いている場所は安全な所ばかりではありません。”こどもだから”という理由だけで、大人にとっても危険なところで働かされたり、大人よりはるかに安い給料で朝から晩まで働かされています。このような子どもたちは世界には、2億5千万人いると言われていています。

こうして様々な理由で学校に行けず困っている子どもたちは、世界中に1億1千万人以上います。学校へ行けないと文字も読めないし、簡単な計算ができないので大人になってからすごく困ると思います。

私はなんて幸せなんだろうと思いました。私は、学校に行けて給食を食べてふつうに生活することができます。私たちがふつうにできること、している

ことを幸せだと思っている子どもたちは世界中に何千万人もいます。

世界中の子どもたちが安全に学校に行けて、安全に3食ご飯を食べれて、安全に生活が出来る、そんな世の中にならないと絶対に平和とはいえないと思います。

私たちは、こんな幸せすぎる生活を当たり前のように毎日過ごしています。世界には、明日の食べ物が無かったり、戦争をしたりして”明日死ぬかも”という心配をしながら毎日を過ごしている人たちがたくさんいます。私たちはそういう人たちがいることを忘れかけてしまっていると思います。そういう人たちのためになにかできることを探し、実行していくことが世界平和の第一歩につながっていくと思います。そして、世界中の人々が平和に暮らせて、世界中の人々が笑顔でいられる、そんな世の中になってほしいです。

## 日本と世界の【つながり】は・・・

永盛 美咲

私は、社会の勉強で戦争について調べました。戦争が終わって日本は、他の国に迷惑なことをしてしまいました。そのことについてあやまり、48カ国に許してもらいましたが2つの国が許してくれませんでした。その国は、中国とソ連（ロシア）が許してくれませんでした。その後、ソ連（ロシア）は許してくれました。東京オリンピックが行われた後、やっと中国が許してくれました。それが、日中平和友好条約です。その記念に、日本にパンダが送られました。

その後、日本は日本国憲法がつけられました。そして、その憲法の中に、二度と戦争をしないという約束が入り、いろいろな国と貿易を始めました。その国は、アメリカ、中国、韓国、台湾、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、オーストラリアなどいろいろな国とです。しかし、貿易していない国もありました。サンマリ共和国、バチカン、リヒテンシュタイン公国などです。「なぜ貿易していない国があるのか？」という疑問をもちました。この疑問の答えを探してみました。

日本とバチカン（ローマ法王庁、つまりローマ教皇庁）が外交関係を樹立した当時の定訳は、「法王」だったため、ローマ教皇庁がその名称で日本にしんせい。そのまま「法王庁大使館」になりました。日本政府に登録した国名は実際に政変が起きて国名が変わるなどしない限り、変更できないそうです。その国によって貿易ができる国とそうでない国があるのだと思うと思います。こういった国は、たくさんありますので、もつとたくさんの国と貿易または、交流を増やして行ってほしいです。

今、日本と交流していない国はまだあります。その国とどうやったら交流を増やせるか、日本と他の国との関係はどうなっているか。もつと日本と他の国と交流を増やして、貿易したり他の国の人とふれ合ったり、国交を深めていくことが大切なんだと思います。今後、もつといろいろな国の人と接していき、言葉や文化を学んで交流を深めていきたいです。

日本といろいろな国どうして交流を増やしていき、つながって行って、争いのない平和な世界になってほしいです。

## 飲酒運転が、なかったら平和か??

羽方 彩

このごろ、飲酒運転をして事故にあう人がいっぱい出できました。

11月18日に、大阪で飲酒運転によるひき逃げがありました。新聞配達の、東川達也（ひがしがわ たつや 16才）さんが、車にはねられ、引きずられて亡くなりました。車に乗っていた容疑者、大工の市川保（いちかわ たもつ 41才）容疑者が捕まりました。もう1つ、17日の夜、稲敷市内で警視庁の警視（50才）が飲酒運転の現行犯で逮捕されました。警視は酒酔い運転中、当て逃げ事故も起こしていました。警視は、職場の同僚とバーベキューをしながら酒を飲んだ帰りだったといいます。

11月中旬に飲酒運転による事故がありました。それも、大阪。（↑一番最初とちがう記事↑）16日の夜、会社の人（計2人）とさけを飲み運転し、事故がありました。その事故について、一緒にいた会社の人に聞いたといいます。一緒にいた人はこう言いました。「酒を飲み、（店で！）車に乗る（帰り！）ところは分かったが、あとは覚えていない」と言いました。その会社の方は、酒をすすめた容疑で捕まりました。

酒酔い運転でとられる点数は25点又は、5年以下の懲役や100万円以下の罰金となります。酒気帯び運転でとられる点数は15点または、3年以下の懲役や、50円以下の罰金となります。（飲酒運転は絶対しちゃだめ(>\_<)！）

1. お酒を飲んだら絶対運転しない。
2. お酒を飲んだ人には、車を貸さない。
3. 運転する人には、お酒を出さない。 すすめない。
4. お酒を飲んだ人には、運転をさせない。同乗しない。

『や・く・そ・く！』

飲酒運転は人を殺してしまったり体にけがを負わせてしまったり、だれもいい気持ちにはならないと思うので、やめたほうがよいと思います。人が死んでしまったり命がむだになってしまいます。

わたしは、大人になったら飲酒運転はやらないけど、みんなも飲酒運転をやらない方がいいと思いました。

## 生活に苦しい子供達のために

早瀬 智子

今、私達は毎日3食食べられたり、おやつを食べたり、不自由なく学校へ通っているのが当たり前です。

でも私たちと比べて世界には、学校に行きたくても家の都合で行けない子や、安い給料で働かされている子、しかも毎日、十分にご飯が食べれない子など私達とはまったく正反対な子がたくさんいます。だからそうゆう子供達に出来ることはないか考えました。

私がまず1つ目に考えついたのは、ユニセフです。なぜなら私は募金活動をやっているからです。ユニセフとは、全ての子供達の権利が守れる世界を実現するための組織で、予防接種や治療やユニセフ募金をしてくれた人達のお金できれいな水が飲めない所をにごった泥水から、きれいで清潔な水に変える活動、食料支援などを行っています。

ユニセフ募金をしていると時々、手紙が届き、「こういうのを買ってください」みたいなのがきて、時々私も買います。こんなかわいい物を買おうと募金になるなんてよく考えたなといつも届いて見ると思います。こんなユニセフを私は、みんなの募金で子供たちを救い希望をあたえるものだと思います。

2つ目は実際その場に行って病気になった人々を助ける事をしている、「国境なき医師団」です。国境なき医師団とは、1971年フランスで設立された世界19カ国に支部を持つ国際的な民間の人道や自然災害、あるいは災害武力、紛争の被害者に対し、人種・しゅきょう・信条政治所属にかかわらず、差別することなく援助を提供している、医療援助団体です。私が考えるには、国境なき医師団とはすぐれた技術を持っている人達が行く所だと思いますが、自分の気持ちに強い人ややさしい心などを持った人が多くいるのではないかと思います。

私は、こういう人達をみならって将来、差別なく医療に関係のある仕事についていろんな人に手を差し伸べていきたいです。

## “平和”ってなあに？

広瀬 音々

私達が生まれる前に「戦争」がありました。今でも、他の国では続いています。でも、日本は「もう二度と戦争はしない！」と言い、今は起っていません。だけど、「いじめ・人殺し」は戦争の原因とも言われています。この、「いじめ・人殺し」はまだ続いています。

いじめは私達の身の回りで起きています。人殺しは大人が多くやっています。私達もいつ殺されるか分かりません。いじめや人殺しで罪のない人、小さな子供、お腹に赤ちゃんがいる人など、多くのひとが殺されたり、現実がいやになって自殺する人がニュースでも毎日のように報道されています。いじめは“言葉”を変えたり、止めたりすれば起こらないと思います。いじめがなくなれば、人殺しもなくなります。「ストレスがたまっただから…」などはいじめが原因らしいです。過去にあった嫌なことをすべて暴力でなくそうと思う人がいたから始まったのです。

「ピアノ事件」がその始まりだそうです。マンションの二階の人はお母さんが帰ってくるのがいつも22時（午後10時）ぐらいで、お母さんが帰ってきてはピアノをひいていたそうです。下の階のひとは「うるさい！やめてくれ！」といったのですがやめなかったので下の階の人は腹が立って包丁でピアノをひいていた人の首を切り、その首を玄関においたそうです。その後、次々と殺人事件が起きたそうです。やめない方も悪いですが、嫌だからと言って殺すのはもっと悪いと思います。1対1で言い争う。それが「けんか」。「けんか」がエスカレートすると、一方的に1人をいじめると「いじめ」と変わるのです。

私は、「ハンナのかばん」を読みました。学校の学級文庫にあるので、友達も読み感動し泣いていたそうです。私も少し泣いてしまいました。その内容は、ハンナ・ブレイディという少女はユダヤ人で小学3年生からユダヤ人だからって学校にいけなくて、外にも出てはいけなくて、とうとうL410号棟と言う収容所に入れられてしまい13才でガス室にいれられ、殺されてしまうのです。あのユダヤ人ぎゃく殺なんてなければよかったのにと、私は強く思います。人間はみんな同じなんだと「ヒトラー」と言う人はまったく分かっていないと思いました。ヒトラーと同じように、

悪いということが分からない人が、この世の中にはたくさんいます。

その一方で、青年海外協力隊や RYS 奉仕団活動、ユニセフなど、世界の平和に協力している人もたくさんいます。学校で配られる「赤い羽根募金」だって、ボランティア活動と同じです。RYS 奉仕団活動をしている日本人は高校生・大学生 12 人が参加しました。他の国ではマレーシアやフィリピンなど、アジア各国 30 人が参加したそうです。わたしにも何か出来ることはないかなあと思いました。

そして、私が思う理想的な平和は「みんなが楽しく、憎まず、助け合える。そして、笑顔がある。」です。そんな世界が本当に実現できるといいなと思います。

“平和”ってなあに？その答えは人それぞれです。人助けをしたり、一緒に遊んだり、お腹いっぱいご飯を食べたり……。そう思う気持ちが強ければ、いつかそんな平和がほんとうに芽生えてくるのだと思います。









